

学びや

タイムスリッパ

(昭和時代)

② 現代のような学校風景の成立

②

明治時代中期に誕生した高等女学校(以下、高女)は、1910年代に急激に増加し、20年頃には生徒数が男子の中等教育機関である旧制中学校を上回りました(『文部

省年報』より)。それは、1910(明治43)年に「実科高女」という、授業の約半数を裁縫系が占める高女の設立が認められたからです。

ただし、京都市内では高女(現京都文教中・高)は、1924(同13)年、写真①は、1938(同13)年の京都高女(現京都市女子中・高)における運動会でのフォークダンス

も、1915(大正4)年にも高女に昇格したわずから4年後に、華頂高女に改組しています。

いわゆる「花嫁学校」として有名だった家政高女(現京都文教中・高)は、1924(同13)年、写真①は、1938(同13)年の京都高女(現京都市女子中・高)における運動会でのフォークダンス

かもしれません。しかし、1930年頃から40年代初頭にかけての写真をみると、当時すでに都市部では現在のようないわゆる「花嫁学校」として有名だった家政高女(現京都文教中・高)は、1924(同13)年、写真①は、1938(同13)年の京都高女(現京都市女子中・高)における運動会でのフォークダンス

職員室の写真、学校生活に関する証言、ノート(写真③)、堀川高女2年生の白地図帳)、教科書への書き込みなどから、1930年代には現代風の「学びや」が成立していたことがわかります。

(京都市学校歴史博物館 学芸員 和崎光太郎)

フォークダンス、書き込みも

1931(昭和6)年に移された市立伏見実科高女が、京都市内では唯一の実科高女になります。高女という「過去」の遺産であり、現在の中学・高校での風物詩の遺産であり、現在の中に広まっていたのです。写真②は、1941(同16)年の市電「堀川蛸薬師」の電車を待つ様子です。戦後の新制高女(現京都市女子中・高)における運動会でのフォークダンス

今回紹介した資料は学校歴史博物館(下京区)の企画展「京都の高等女学校と女生徒」(20日ま



①運動会でのフォークダンスの様子(1938年)



②市電停留所「堀川蛸薬師(女学校前)」(1941年)



③近畿地方の地理や産業が書き込まれたノート